

第6回あらかわ俳壇

投句数	690句
投句者数	184名
兼題	朝顔、花火、残暑、当季雑詠
期間	平成29年7月1日(土曜)～9月30日(土曜)

特選	告げざりしことばの浮遊遠花火	竹腰 千恵子さん
選評	言わなかった言葉、言えなかった言葉…。その思いは消えるのではなくどこかでふわふわと漂っているのでしょうか。遠い花火を背景に、伝えられなかった言葉が夜空に浮かんでいるという感覚が独自です。(対馬康子氏)	
入選	はえたたきふとんたたきにているよ	岡安 空 ニコラスさん
	地獄門ふれなば鉄塊残暑なり	古川 夏子さん
	川霧や茫々として草の丈	竹野 美恵子さん
	朝顔は擦れ違いこそあわれなり	花谷 一雄さん
	砂浜に打ち上げられた無月かな	収三さん

第7回あらかわ俳壇

投句数	351句
投句者数	70名
兼題	紅葉、返り花、短日、当季雑詠
期間	平成29年10月1日(日曜)から12月31日(日曜)

特選	今日の色明日に重ねて返り花	寺田 千賀子さん
選評	目にしたものは返り咲いた花「今日の色明日に重ねて」と、情感の深さを引き立てている。しみじみと心に触れる明日への期待と希望にも通じるものである。作者の返り花に対しての挨拶ともとれる礼賛の一句であろう。(佐々木忠利氏)	
入選	草庵の籬にぼけの返り花	小池 恵美子さん
	短日や灯の帯走る中山道	坂本 久男さん
	小夜時雨笑顔のままで目覚めけり	細田 昌子
	紅葉散る流転の旅の一刹那	三田 忠彦

第8回あらかわ俳壇

投句数	314句
投句者数	63名
兼題	独楽、猫の恋、春寒、当季雑詠
期間	平成29年1月4日(木曜)から平成30年3月31日(土曜)

特選	乾坤の軸となりたる独楽澄めり	林 千乃さん
選評	巻きつけた紐をしゅっと放して独楽が回りだす。うまく芯をとらえると真っ直ぐに、一心に回る。それを乾坤つまり天と地の間の軸となって、きれいに澄んでいると大きく詠んだ。お正月らしさがある。(対馬康子氏)	
入選	両手伸ばして猫の恋終わる	高安 政江さん
	手をかざす炎は燃ゆる椿かな	田中 和明さん
	キャラメル箱がこぼれて蝶ひらり	中山 千利さん
	コピー紙に写したような猫の恋	梅津 楓人さん
	春浅し出汁の煮干しの眠たさう	小林 貞夫さん